



「鳥取県立美術館探訪」アート・オブ・リアル時代を超える美術
若冲からウォーホル、リヒターへ」

北尾 修(TSK)

山陰支部では6月10日(火)参加者17人で美術館探訪を行いました。この日は梅雨入りして2日目の曇り空。山陰海岸を眺め、大山の北壁を眺望しながら旅をし



ようと、列車で鳥取県倉吉市・倉吉駅に向かいました。倉吉駅からは路線バスに乗り、今話題の鳥取県立美術館に到着。出迎えていただいた館長・尾崎(おさき)伸一郎氏の案内で開館記念の企画展を鑑賞しました。



企画展は江戸絵画から現代アートまで国内外の作家が制作した約180点の作品が3階と2階の展示室を使って展示されていました。

企画展の目玉は話題になった「ウォーホルの箱」です。フロアに積まれた「箱」に、「これが3億円の箱かね」と思っているの感想を抱きながら鑑賞していました。



「これが3億円の箱かね」

今回の「探訪」のきっかけとなったのは山陰支部で毎年定期的で開催している「文化講演会」です。この講演会は、山陰地方で活躍する著名人(時代の先駆者)に最新の情報を語っていただく催しで、昨年開催の第4回の講演者が鳥取県立美術館の館長・尾崎伸一郎氏。今年3月末に開館した美術館ですが、講演は開館前の昨年7月でした。会員からの「是非、美術館探訪がしたい」との要望で

実現した企画です。

美術館までの移動はJRや公共バスなど公共交通機関を利用し、地球にやさしい小旅行。

お昼の食事は、美術館に併設されたレストランの特別仕立て特別弁当をいただき、参加した会員は大満足でした。

参加者の1人は「去年、文化講演会で尾崎館長に講演していただいたこともあり、再び尾崎館長、直々にご案内いただき、企画のコンセプトが良く理解できた」と印象を話しました。

